

日本ロジファクトリー [物流専門コンサルティング]

荷主企業・物流企業の温度差を解消し 物流改善から経営を支援

ヒト、モノ、カネ、システム……物流改革に着手するとき何から手をつけるべきか——。そんな悩みを解決してくれるのが、日本ロジファクトリー。物流改善を支援する、日本初の物流専門コンサルティング企業だ。

物流問題を解決するためならどこへでも——と、日本全国を休む暇なく飛び回っている人がいる。その人とは、(株)日本ロジファクトリー代表取締役の青木正一さん。取材に訪れた日も、いくつもの案件を抱え、分刻みのスケジュールをこなしていた。

「いまも、外資系企業の物流問題を解決してきたところなんです。これまで何時間話し合ってもまったく解決の糸口がつかめなかったようなのですが、当社がお手伝いしたところ、1時間くらいで方向性が定まり、いい解決策が見つかりました」

こんな風だから、青木さんはいまや引っぱりだこ。それもそのはず、青木さんが率いる日本ロジファクトリーは、日本で唯一の物流専門組織コンサルティング企業なのだ。

荷主・物流企業の双方に精通

「一口に物流といいますが、そこには人の問題、お金の問題、システムの問題、さらには設備の問題など、いろいろな問題が複雑に絡み合っています。そういった物流に関する困ったことなら、どんな些細なことでも解決して差し上げるのが私の役割だと考えて

います」

当然のことだが、物流には商品を提供する荷主企業と、それを運ぶ物流企業がある。できるだけ安く、早く、確実に届けたいというのが荷主企業のニーズなら、そのニーズに応えることが物流企業の役割だ。構造は極めて単純。しかし、青木さんによれば物流とはそう単純なものではないらしい。

荷主企業は物流企業の台所事情を知らないから、どういう風に仕事を出せば相手が喜ぶか、コストダウンができるかがわからずに、自分たちの都合だけで押しつけてしまう。一方の物流企業も、荷主側の利益構造や仕組みをわかっていないから、荷主企業に合わせるができない。

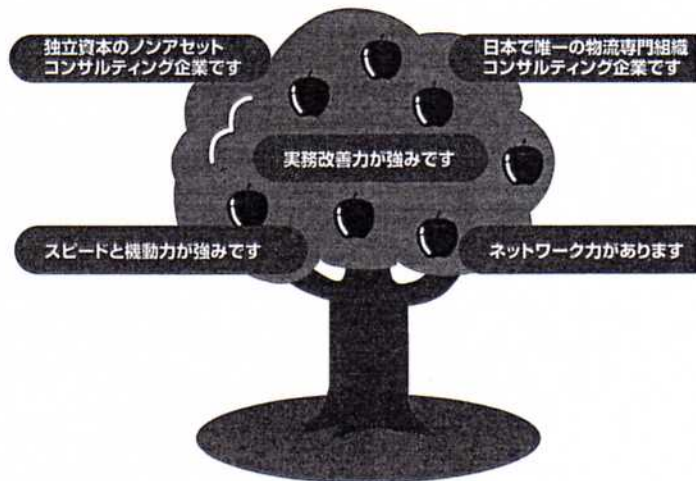
つまり、両者が理解し合っていないために意思の疎通がうまくいかず、双方にとってメリットのある仕組みがとくれずにいるのだ。

その点、同社は荷主企業、物流企業のどちらの事情にも通じてい

るのが強み。物流現場実務に精通したスペシャリストを揃えているから、より現場に即した物流改善提案と実務改善・運営のサポートができるという。また独立資本、倉庫・トラックなどを持たないノンアセット事業を展開しているため、客観的かつ公平なコンサルティングを実践できるというわけだ。

コンサルを起点に事業を拡大

青木さんは佐川急便で4年間働いて現場感覚を養った後、船井総合研究所に入社し、運送会社専門のコンサルタントとして活躍していたという。この



日本ロジファクトリーの特徴